

透析療法の選択

Q11 高齢者には、どのような透析療法が良いのでしょうか？

A11 医療の分野では、高齢者を年齢により、前期高齢(65歳以上74歳未満)、後期高齢(75歳以上84歳未満)、超高齢(85歳以上)に分けるのが一般的です。従って、高齢者といっても幅広く、真に高齢といえる年齢は後期高齢以上であり、その方々はわが国の平均寿命近くまで、あるいはそれを超える長い年月を元気に過ごされている、いわば人生のエリートであります。

しかしながら、後期高齢ならびに超高齢の末期腎不全患者さんは、透析導入時にすでに持っている合併症のみならず、加齢によるさまざまな身体機能の低下は避けられず、それが透析療法の選択に大きな影響を及ぼしています。後期高齢者・超高齢者の方が透析療法選択時に考慮すべきことは、老年(加齢)医学の原則である「高齢者を総合的に評価すること」であり、「透析導入時に高齢者が持っている能力を信じること」です。

また、血液透析(HD)と腹膜透析(PD)は共に高い医療レベルにあるにもかかわらず、透析療法の内容は患者個々の合併症の程度により大きく左右されることから、両療法における予後とQOL(生活の質)については一律には評価できません。しかし、導入時まで自立、あるいは家族の支援で自立していた方は、PD療法導入後、予想以上にすばらしい透析ライフを過ごせることや、PD療法が高齢者に精神的に受容されやすいことから、高齢者におけるPD療法が増加しています。

わが国は世界一の長寿国となり、また透析医療の進歩につれて高齢者の透析患者数は増加の一途です。これからの腎不全対策に求められるものは、十分なインフォームド・コンセント(説明と同意)と、高齢者自らが治療方針を選択する環境作りであると考えられます。

(平松 信/岡山済生会総合病院・医師)